



# 琴似屯田子孫会会報

題字

西区長 村上 文章

編集発行

琴似屯田子孫会

印刷

山藤三陽印刷K.K



北海道指定有形文化財 (琴似神社境内)

## 屯田兵の文化や遺産を 後世に語り継ぐために・・・

琴似に屯田兵村が誕生して、来年が150年になろうとしています。歴史講演会やパレード、各種まちづくり団体と連携した事業等を通して屯田兵の果たした役割や足跡を多くの人に知っていただけるものにしたと計画中です。

現在、老朽化のため非公開になっている琴似神社の兵屋を公開できるように働きかけたいと奮闘中です。そのためにも、兵屋を活用したイベントを企画するとか、もっと知っていただくのかかわりが問われているようです。

昨年の猛暑に比べると今年の暑さはしのぎやすく、琴似の地にも少しずつ秋の足音が近づいてまいりました。琴似屯田子孫会の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

本年4月に西区長を拝命し、この歴史ある西区のまちづくりに微力ながら関わらせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

アイヌ語の「コツ・ネ・イ」が語源であるといわれているこの琴似の地に、明治8年に屯田兵として移住された皆さま方のご先祖は200戸ほどであったとのこと、現在西区には22万人近くの区民の皆さまが住んでいることを考えますと、琴似、西区のこれまでの歩みには大変感慨深いものがあります。厳しい自然環境の中で、今日の礎を築いてくださった先人たちの生活、労苦はいかばかりかと偲ばれるとともに、このような先人たちの営みを受け継いで、私たちの世代が、将来を見据えたまちづくりに取り組んでいかなければならないと改めて気を引き締める思いでございます。

さて、ここ数年はコロナ禍により様々な活動が制限されてきたところですが、ようやく日常が戻りつつあり、琴似屯田子孫会も5年ぶりの総会・懇親会を開催されたとのこと、

## 入村150周年に向けて



西区長  
村上 文章

誠におめでとございます。総会では、昨年度の会津まつり「藩公行列」に参加されたご報告があったと伺いました。会津盆地の残暑のなか、70代80代中心の子孫会一行が冬服の軍服を着て市中10kmの距離を一日掛けて歩き通されたとのこと、その体力と精神力はやはり琴似屯田兵の末裔と納得するところでございます。藩公行列の出陣は5年に一度許されているということで、皆さま全員が次回も出陣されることを願っております。

また、来年は琴似屯田兵入村150周年の節目となります。子孫会では琴似屯田兵のルーツとなる東北の仙台藩巨理伊達家や会津藩松平家、そして、米沢藩上杉家の当主の方々をお呼びしての歴史講演会や、屯田兵パレードなどを企画されていると伺っております。また、各種まちづくり団体と連携しながらイベントなどの開催も検討されているとのこと、今回の周年事業の成功をきっかけに皆さま方の連携がこれまで以上に深まることを期待しております。

結びとなりますが、来たる入村150周年に向け、琴似屯田子孫会の皆さまの更なるご活躍とご発展を心からお祈り申し上げますとともに、今後とも西区のまちづくりに変わらぬお力添えをお願いいたします。



## 第47回定期総会 会津まつり 出陣報告会・懇親会

5月12日(日)、コロナ禍によって令和元年の第47回総会以来開催できずにいた定期総会と昨年2度目の出陣を果たした「会津まつり会津藩公行列の報告会」を、琴似神社での参拝に引き続いてホテルヤマチに於いて開催しました。

### 第47回定期総会

総会に先立って14時から琴似神社及び報徳神社を参拝し、会場をホテルヤマチに移して15時30分から総会並びに「会津まつり報告会」・懇親会が行われました。

総会は千田薫理事の進行のもと、山田康正副会長の開会の言葉があり、議事に入る前に物故会員のご冥福を祈り黙祷を捧げました。

伊藤献一会長からの挨拶の後、来賓の北海道屯田倶楽部会長梶田博昭様、株式会社オーク社長酒井和子様、北海道開拓倶楽部海堂拓己様の紹介があり、恒例によって伊藤会長を議長に選出して議事に入りました。

コロナ禍によって令和となつて初めての総会とあつて、令和元年から5年までの事業報告となりました。関東支部を代表して真柳仁様から活動の様子が報告されました。また、令和5年度の収支決算報告及び令和6年度の事業計画及び予算案、そして150周年事業について担当理事から提案され承認されましたが、来年にせまった「入村150年記念事業」の内容について、懸案になっていることなどをまとめてみることにします。

まず、最大の懸案事項として「150年事業の組織づくり」があります。「130年事業」の時も「140年事

業」の時も、西区がその中核にいて、それに連町・商店街・飲食業組合と我々子孫会とで構成した組織が立ち上げられて、「町おこし」の一環として記念事業が進められたのでした。

ところが、時代の流れの変化によって、さまざまに働きかけてはいるもののそのような組織化は難しくなっているのです。現在も模索は続いているのですが、主として、子孫会がやらなければならないという状況にあります。

こうした中で、現在考えられている事業として150年記念の式典と祝賀会、歴史講演会、琴似神社秋祭り時の「屯田兵パレード」、報徳神社修復作業の記録化等があります。歴史講演会では、巨理伊達家20代当主の伊達元成様と会津松平家14代当主の松平保久様、そして、奥羽越列藩同盟の盟主であつた米沢藩の上杉家32代当主の上杉邦憲様を予定しています。伊達元成様の講演会では、岩出山伊達家の当別移住を描いた「大地の侍」の上映も視野に入れていきます。

琴似神社の境内に保存され、道の有形文化財となつている「屯田兵屋」は、老朽化が進んだことで、現在一般公開はされていません。せっかくの文化財なので何とかしたいと思つてはいても、手に負えないで遠方に暮れている状態でした。

それが、クラウドファンディングで「北海道百年記念塔」の保存活動を



報徳神社から御魂が移された奉安殿の前で

されたという海堂拓己様と知り合いになり、協力を申し出ていただきました。そして、その数日後に、報徳神社の記録にと出かけた琴似神社で、建築士の渡辺一幸様と村口郁美様、そして、宮大工の高橋一彦様と出会うのです。この方たちは、報徳神社の修復工事に携わっていた方たちでした。その上、何と兵屋の改修についての調査を既になさつておられたのでした。

兵屋を一般公開できるように何とかしたいと思つてはいても、何をどう直せばいいのか、その資金はどうしたらいいのかという術を持ち合わせないでいたところに、相次いでそれに長けた方々が登場してきたのでした。

屯田兵の祖父や曾祖父たちが、「や

るなら今だよ。」と言っているように思えました。

関係機関の許可もとらなければなりませんし、学習も深めないといけません。でも、せっかくの機会ですから、150年事業として取り組みたいと計画しているところです。物心両面でのご援助を期待しています。

令和6年度役員

顧問：菅原隆志(琴似神社宮司)・小泉武義 相談役：斎藤貞夫・吉田益子 会長：伊藤猷一 副会長：山田康正・岩佐敏廣 事務局長：永峰貴 事務局次長：千田薫・梅津清美 会計：太田豊 組織・資料部：宮本美栄子 広報部：山田伴一・三澤英一 事業部：山口昇一・三戸部清美・阿妻一直 監事：羽田信三・山口昌二

会津まつり出陣報告会と

懇親会

総会に引き続き、昨年9月23日(出)に開催された会津まつり『会津藩公行列』に2度目の出陣をした報告会が開催されました。出陣の様子をスライドで振り返るというものでした。

初めての出陣となった5年前は、「会津戊辰戦争百五十周年」の年の平成30年のことでした。初陣ということで緊張していたところへ、北海道胆振東部

地震が発生して全道ブラックアウト。輸送手段が混乱する中での出陣となったものでした。

その上、冬服の制服を身にまとい、会津盆地の暑さに道産子が耐えられるか…という課題を背負っての出陣でありました。それでも北海道からの出陣を知った観衆からの「地震大丈夫だったか?」の声と「かつこい!」の声に励まされて見事初陣を果たすことが出来たものでした。私たちの目からは、鎧と兜に身を包んだ武者姿の他の部隊や娘子隊、なぎなた隊、着飾った姫たち、そして、顔を真っ赤に塗りたくった奴隊の方がはるかにかつこよく見えるのですが、それに見慣れているためか、軍服姿が珍しかったのか、行く先々で「かつこい!」を耳にしたのでした。

二度目となった今回は、気持ちの上ではゆとりはあったものの、5年経ったという時間の重みに耐えられるかが課題となりました。それでも、当日の朝が小雨交じりであったこともあって、思いの外暑さを感じずに歩くことが出来ましたし、「会津まつり」を愛し、自負している沿道の市民たちが、遠来の私たちを受け入れていくれるのを感じ、ややへたばりながらも、無事落伍することなく帰陣式場の鶴ヶ城にたどり着いた模様をスライドで振り返ったのでした。

報告会に引き続き行われた懇親会には、琴似二十四軒まちづくりセン

ター所長の末森剛様、琴似連町会長の加賀谷弘道様、二十四軒連町会長の西内正幸様、一級建築士の渡辺一幸様、村口郁美様もご臨席くださり、和やかなひとときを楽しむことが出来ました。



中神哲二・二瓶恵司・嶋影元春さん

入村 150年事業への寄附のお願い

150年記念事業として、記念式典・歴史講演会・屯田兵パレード及び地域のまちづくり団体と連携してのイベントを計画しておりますが、琴似神社境内の北海道有形文化財である屯田兵屋を公開できるように修復したいと考えております。多大な費用がかかりますので、会員の皆様方からの寄附を募ります。一口2000円とし、口数に制限はありません。年会費納入用の振込用紙にてご協力くださいますようお願いいたします。

会津からの訪問団

会津まつりを主幹する「会津まつり協会」が事務局となって企画された「戊辰戦争最終決戦の地函館市と北海道開拓など時代の転換期において多大な功績を遺した会津人の足跡せたな町・岩内町・札幌市を訪ねて」の一行が、7月7日(日)、琴似神社に来られました。

一行には、室井照平市長を始め、会津まつり協会の星盛光さんやいつもお世話になっているポランティアガイドの鈴木都志美さんがおられ、総勢80名という大ツアーでした。予定よりも早くお着きになられたので、神社境内や兵屋等をご覧いただき、参集殿にて琴似の屯田兵についてスライドで説明させていただきました。10年程前にも同様のことがありましたが、



こうして、故郷の皆さんとの交流が持てることの幸せを感じるとも思いました。